

東日本大震災からの 復興を考える

レジリエンス社会を作るために地域大学が
担うべき役割とは

参加料

無料

定員100名

※申込不要・当日参加可

平成31年

3月10日 日

14:00~17:00

弘前市民文化交流館ホール

青森県弘前市駅前町9-20 ヒロ口4F TEL.0172-35-0154

※当日の駐車場は混雑が予想されますので、係員の誘導に従ってください。

事業目的

2018年には、台湾地震、大阪北部地震、西日本豪雨、北海道胆振東部地震等の大きな災害が続き、国内外で多くの被害が発生した。これらの災害が残した教訓には多様なものがある。また、東日本大震災や熊本地震の経験から事前防災・減災対策の重要性を学ぶことができた。本フォーラムでは、これらの災害復興の教訓を踏まえ、災害から速やかに日常を取り戻す回復力をもつレジリエンス社会を作るために地域大学として何ができるのかについて模索することを目的とする。

主催／弘前大学人文社会科学部
地域未来創生センター

後援／弘前市、東奥日報社、
陸奥新報社

「東日本大震災からの復興を考える」 -レジリエンス社会を作るために地域大学が担うべき役割とは-

プログラム

13:30 開場

14:00~14:10 開会・主催者挨拶 ● 李 永俊 〈弘前大学人文社会科学部 地域未来創生センター長〉

14:10~15:30 **第1部 基調講演** ● Jennifer Horney 先生 〈テラウェア大学災害研究センター・教授〉 使用言語:英語(通訳あり)
● 葉山 茂 先生 〈人間文化研究機構総合人間文化研究推進センター研究員(国立歴史民俗博物館特任助教・併任)〉

15:30~15:40 休憩

15:40~16:50 **第2部 パネルディスカッション** 趣旨説明・コーディネーター ● 李 永俊 〈弘前大学人文社会科学部 教授〉
パネリスト ● Jennifer Horney 先生 〈テラウェア大学災害研究センター・教授〉
● 葉山 茂 先生 〈人間文化研究機構総合人間文化研究推進センター研究員(国立歴史民俗博物館特任助教・併任)〉
● 角 俊行氏 〈公益財団法人青森県国際交流協会 常任理事兼事務局長〉 ● 高山 知己氏 〈弘前市企画部防災安全課 課長〉
● 渥美 公秀氏 〈大阪大学大学院人間科学研究科 教授〉 ● 河村 信治氏 〈八戸工業高等専門学校総合科学教育科 教授〉
● 永田 素彦氏 〈京都大学大学院人間・環境学研究科 教授〉

16:50~17:00 主催者挨拶・閉会 ● 李 永俊 〈弘前大学人文社会科学部 地域未来創生センター長〉

講師紹介

Jennifer Horney (ジェニファー・ホーナイ)

テラウェア大学災害研究センター・教授、疫学研究部門初代ディレクター。主に災害が健康に及ぼす影響について精力的に研究活動を行っている。

講演タイトル

『Research to Resilience: Why interdisciplinary engaged research is needed to build community resilience to disasters
(レジリエンス研究:レジリエンスな地域社会を作るために、なぜ学際的な研究が必要なのか?)』



葉山 茂 (はやま しげる)

弘前大学で学び2009年に総合研究大学院大学修了、博士(文学)。現職は人間文化研究機構総合人間文化研究推進センター研究員(国立歴史民俗博物館特任助教・併任)。2011年から宮城県気仙沼市で文化財レスキューに関わる。おもな著書に『現代日本漁業誌-海と共に生きる人々の70年』(昭和堂、2013年)、研究映像に『モノ語る人びと-津波被災地・気仙沼から』(国立歴史民俗博物館、2018年)。

講演タイトル 『被災地における文化の継承と再創造に向けた課題』

お問い合わせ

弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター

〒036-8560 青森県弘前市文京町1 TEL 0172-39-3198 (平日10:15~17:00)

E-mail irrc@hirosaki-u.ac.jp URL <http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/irrc/>

